

第52回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結株主資本等変動計算書
連 結 注 記 表
株 主 資 本 等 変 動 計 算 書
個 別 注 記 表

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

株式会社ビジネスブレイン太田昭和

「連結注記表」及び「個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第16条の定めに基づき、当社ウェブサイト (<http://www.bbs.co.jp/>) に掲載することにより、株主の皆さまに提供しております。

連結株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当連結会計年度期首残高	2,233,490	2,592,560	4,221,387	△1,323,037	7,724,400
当連結会計年度変動額					
剰余金の配当			△230,541		△230,541
親会社株主に帰属する当期純利益			993,637		993,637
自己株式の取得				△370,321	△370,321
自己株式の処分		274,070		119,507	393,577
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)					-
当連結会計年度変動額合計	-	274,070	763,096	△250,815	786,352
当連結会計年度末残高	2,233,490	2,866,631	4,984,483	△1,573,852	8,510,752

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額			非 支 配 株 主 分	純 資 産 合 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	退 職 給 付 に 関 連 調 整 累 計 額	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
当連結会計年度期首残高	62,505	△100,918	△38,413	243,796	7,929,783
当連結会計年度変動額					
剰余金の配当					△230,541
親会社株主に帰属する当期純利益					993,637
自己株式の取得					△370,321
自己株式の処分					393,577
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)	30,409	13,679	44,088	30,469	74,558
当連結会計年度変動額合計	30,409	13,679	44,088	30,469	860,909
当連結会計年度末残高	92,914	△87,239	5,675	274,265	8,790,692

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の状況

- ・ 連結子会社の数 10社
- ・ 連結子会社の名称 (株)ファイナンシャルブレインシステムズ
グローバルセキュリティエキスパート(株)
(株)P L Mジャパン
(株)B B S アウトソーシングサービス
(株)B B S アウトソーシング熊本
日本ペイメント・テクノロジー(株)
(株)E P コンサルティングサービス
(株)ミックス
(株)アイ・エス・エス
(株)テクノウェアシグ

② 非連結子会社の状況

- ・ 非連結子会社の数 3社
- ・ 非連結子会社の名称 BBS (Thailand) Co.,Ltd.
BUSINESS BRAIN SHOWA-OTA VIETNAM CO.,LTD.
BBS CONSULTING SERVICE CO.,LTD.
- ・ 連結の範囲から除いた理由 非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

(2) 持分法の適用に関する事項

① 持分法を適用した非連結子会社の状況

- ・ 持分法適用の非連結子会社又は関連会社数
一社

② 持分法を適用していない非連結子会社又は関連会社の状況

- ・ 非連結子会社及び関連会社の数 4社
- ・ 非連結子会社及び
関連会社の名称 BBS (Thailand) Co.,Ltd.
BUSINESS BRAIN SHOWA-OTA VIETNAM CO.,LTD.
BBS CONSULTING SERVICE CO.,LTD.
ニュー・リレーション・インフォ・ビズ(株)
- ・ 持分法を適用しない理由 非連結子会社及び関連会社は、連結純損益及び連結利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

- 連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. その他有価証券

- ・時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

なお、組込デリバティブを区分して測定することができない複合金融商品については、複合金融商品全体を時価評価し評価差額は損益に計上しております。

- ・時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ. たな卸資産の評価基準及び評価方法

- ・仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

- ・貯蔵品

最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産

定額法

- （リース資産を除く）

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～39年

器具備品 2～17年

ロ. 無形固定資産

- （リース資産を除く）

- ・ソフトウェア（販売目的）

見込有効期間（3年以内）における見込販売数量に基づく償却額と販売可能な残存有効期間に基づく均等配分額を比較し、いずれか大きい金額を償却しております。

- ・ソフトウェア（自社利用目的）

社内における利用可能期間（5年以内）に基づく定額法によって償却しております。

- ・その他

定額法を採用しております。

ハ. リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

イ. 貸倒引当金

売掛金等の債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ. 賞与引当金

従業員に支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

ハ. 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

ニ. 受注損失引当金

ソフトウェアの請負契約に基づく開発等のうち、当連結会計年度末で将来の損失が見込まれ、かつ当該損失を合理的に見積ることが可能なものについては、翌連結会計年度以降に発生が見込まれる損失額を計上しております。

- ホ. 従業員株式付与引当金 当社従業員に対する将来の当社株式の給付に備えるため、従業員向け株式交付規程に基づき、当社従業員に割り当てられるポイントの見込数に応じた株式の給付額を基礎として計上しております。
- ハ. 役員報酬BIP信託引当金 当社及び当社のグループ会社の取締役に対する将来の当社株式の給付に備えるため、株式交付規程に基づき、取締役に割り当てられるポイントの見込数に応じた株式の給付額を基礎として計上しております。
- ④ 退職給付に係る会計処理の方法
- ・退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
 - ・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
過去勤務費用については、その発生時の連結会計年度で一括して費用処理するほか、一部の連結子会社においてその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を費用処理しております。
数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年～10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。
- ⑤ 重要な収益及び費用の計上基準
- 受注制作のソフトウェア開発に係る売上高及び売上原価の計上基準
- イ. 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる開発進行基準（進捗率の見積りは原価比例法）
- ロ. その他の開発 完成基準
- ⑥ のれんの償却方法及び償却期間
のれんの償却については、その効果の発現する期間を個別に見積り、償却期間を決定した上で均等償却することとしております。
また、金額に重要性が乏しい場合には、当該のれんが生じた連結会計年度に一時に償却しております。
- ⑦ その他連結計算書類作成のための重要な事項
- ・消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更に関する注記

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社の有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法につきましては、従来、主として定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法）を採用しておりましたが、当連結会計年度より、定額法に変更しております。

この変更は、支店の移転を契機とし、有形固定資産の使用状況を検証し、今後の設備投資の方針を検討したことに伴うものであります。

当社及び連結子会社の有形固定資産は使用期間にわたり安定的な稼働が見込まれることから、有形固定資産の減価償却方法として定額法を採用することが費用配分の観点からより合理的であり、経済実態をより適切に反映できるため、今回の変更を行うものであります。

この変更による当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

3. 表示方法の変更に関する注記

(連結損益計算書)

前連結会計年度まで区分掲記して表示しておりました、「保険事務手数料(当連結会計年度は、2,039千円)」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より、営業外収益の「その他」に含めて表示しております。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

4. 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 510,122千円

上記減価償却累計額には、減損損失累計額12,675千円が含まれております。

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	8,000千株	－千株	－千株	8,000千株

(2) 自己株式の数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	2,185千株	0千株	13千株	2,172千株

- (注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取による増加0千株であります。
2. 普通株式の自己株式の株式数の減少13千株は、株式付与E S O P信託から市場への売却による減少1千株、株式付与E S O P信託の交付による減少1千株、役員報酬B I P信託の交付による減少1千株、従業員持株E-Ship®信託から従業員持株会への売却による減少10千株であります。
3. 普通株式の自己株式の株式数には、株式付与E S O P信託が保有する当社株式(当連結会計年度期首157千株、当連結会計年度末156千株)が含まれております。
4. 普通株式の自己株式の株式数には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式(当連結会計年度期首176千株、当連結会計年度末174千株)が含まれております。
5. 普通株式の自己株式の株式数には、従業員持株E-Ship®信託が保有する当社株式(当連結会計年度期首－千株、当連結会計年度末175千株)が含まれております。

(3) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

イ. 2018年4月27日開催の取締役会決議による配当に関する事項

・配当金の総額	107,587千円
・1株当たり配当金額	17.5円
・基準日	2018年3月31日
・効力発生日	2018年6月22日

ロ. 2018年10月31日開催の取締役会決議による配当に関する事項

・配当金の総額	122,954千円
・1株当たり配当金額	20.0円
・基準日	2018年9月30日
・効力発生日	2018年11月30日

- (注) 1. 上記の2018年3月31日を基準日とする「配当金の総額」には、株式付与E S O P信託が保有する株式に対する配当金2,744千円が含まれております。
2. 上記の2018年3月31日を基準日とする「配当金の総額」には、役員報酬B I P信託が保有する株式に対する配当金3,084千円が含まれております。
3. 上記の2018年9月30日を基準日とする「配当金の総額」には、株式付与E S O P信託が保有する株式に対する配当金3,122千円が含まれております。
4. 上記の2018年9月30日を基準日とする「配当金の総額」には、役員報酬B I P信託が保有する株式に対する配当金3,488千円が含まれております。

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期になるもの

2019年4月26日開催の取締役会において次のとおり決議いたしました。

・配当金の総額	126,651千円
・配当の原資	利益剰余金
・1株当たり配当金額	20.0円
・基準日	2019年3月31日
・効力発生日	2019年6月21日

- (注) 1. 上記の「配当金の総額」には、株式付与E S O P信託が保有する当社株式に対する配当金3,118千円が含まれております。
2. 上記の「配当金の総額」には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式に対する配当金3,488千円が含まれております。
3. 上記の「配当金の総額」には、従業員持株E-Ship®信託が保有する当社株式に対する配当金3,492千円が含まれております。

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については原則として預金等を中心として元本が保証されるか若しくはそれに準じる安定的な運用成果の得られるものを対象としております。また、短期的な資金調達については銀行借入によりますが、長期にわたる投資資金は銀行借入及び増資にて調達する方針であります。余剰資金の運用を目的として、特性を評価し、安全性が高いと判断されたデリバティブを組み込んだ複合金融商品を利用することもあります。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されていますが、原則として1ヶ月以内の回収を基本としております。当該リスクに関しては、当社グループの経理規程に従い、経理部が取引先ごとの期日管理及び残高管理を毎月行うとともに、回収遅延の恐れのあるときは営業部門と連絡を取り、速やかに適切な処理を取るようしております。

有価証券及び投資有価証券である株式、債券（組込デリバティブを区分して測定することができない複合金融商品を含む）、投資信託は、市場価格の変動リスク及び発行体の信用リスクに晒されています。株式は主に業務上の関係を有する企業の株式であります。定期的に時価や発行体企業の財務状況を把握しております。債券は、金利や市場価格の変動リスクに晒されておりますが、金融市況の変動状況等を定期的に把握しております。投資信託については市場環境等の継続的なモニタリングを通して保有状況の見直しの検討をしております。

営業債務である買掛金は、原則として1ヶ月以内の支払期日となっております。

借入金は、信託型従業員持株インセンティブ・プラン「従業員持株E-Ship®信託」に係る政策的な資金調達であります。当社グループの基本方針として所要資金については原則として自己資金で賄うこととし、グループ各社の必要資金は親会社である当社が貸付金又は増資引受により子会社に融通又は供与することとしております。

営業債務や借入金は流動性リスクに晒されていますが、当社及びグループ各社は月次に資金繰計画を作成するなどの管理方法をとるとともに、資金供給元である当社において手元流動性を高水準に保つことによりリスクを回避しております。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく時価のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価格が含まれております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2. 参照）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	6,606,579	6,606,579	－
(2) 売掛金	4,565,547	4,565,547	－
(3) 有価証券	100,000	100,005	5
(4) 投資有価証券	1,232,028	1,232,028	－
資産計	12,504,154	12,504,159	5
(1) 買掛金	1,302,066	1,302,066	－
(2) 長期借入金	351,120	351,120	－
負債計	1,653,186	1,653,186	－

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券、(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。

負 債

(1) 買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金

長期借入金は「従業員持株E-Ship®信託」導入に伴う信託口における金融機関からの借入金であり、短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式	58,276

3. 金銭債権及び満期がある投資有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	6,605,150	—	—	—
売掛金	4,565,547	—	—	—
有価証券	100,000	—	—	—
投資有価証券	—	500,000	20,000	300,000
合計	11,270,697	500,000	20,000	300,000

7. 賃貸等不動産に関する注記

該当事項はありません。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	1,461円38銭
(2) 1株当たり当期純利益	170円77銭

9. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

10. その他の注記

追加情報

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引 (株式付与E S O P信託))

当社は従業員の帰属意識の醸成と経営参画意識を持たせ、従業員の長期的な業績向上や株価上昇に対する意欲や士気の高揚を図ることを主たる目的として、信託を通じて自社の株式を交付する「株式付与E S O P信託」を導入しております。

(1) 取引の概要

当社が従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定しております。当該信託は、予め定める従業員向け株式交付規程に基づき、従業員に交付すると見込まれる数の当社株式を一括取得し、その後、従業員向け株式交付規程に従い、当社株式を従業員に交付します。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額 (付随費用の金額を除く。) により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度161,034千円、157千株、当連結会計年度160,109千円、156千株であります。

(役員に信託を通じて自社の株式を交付する取引 (役員報酬B I P信託))

当社は、当社及び当社のグループ会社 (以下併せて「対象会社」という。) の取締役を対象に、これまで以上に対象会社の中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意欲を高めることを目的として、信託を通じて当社株式を交付する「役員報酬B I P信託」を導入しております。

(1) 取引の概要

各対象会社が拠出する取締役の報酬額を原資として、役位及び業績達成度等に応じて当社株式が交付される株式報酬制度であります。ただし、取締役が当社株式の交付を受けるのは、2017年6月及び取締役退任時となります。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額 (付随費用の金額を除く。) により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度201,397千円、176千株、当連結会計年度199,339千円、174千株であります。

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引 (信託型従業員持株インセンティブ・プラン「従業員持株E-Ship@信託」 (以下「従業員持株E-Ship@信託」)))

当社は、2018年11月28日開催の取締役会決議に基づき、当社従業員に対する当社の中長期的な企業価値向上へのインセンティブ付与、福利厚生の拡充、及び株主としての資本参加による従業員の勤労意欲高揚を通じた当社の恒常的な発展を促すことを目的として、従業員持株E-Ship@信託を導入しております。

(1) 取引の概要

従業員持株E-Ship®信託では、当社が信託銀行に「BBSグループ従業員持株会信託」を設定し、当該信託は「BBSグループ従業員持株会」（以下「持株会」という）が5年間にわたり取得すると見込まれる数の当社株式を一括取得し、毎月一定日に持株会へ売却を行います。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する株式を、信託における帳簿価格（付随費用の金額を除く）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価格及び株式数は、当連結会計年度349,375千円、175千株であります。

(3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価格

当連結会計期間351,120千円

株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本			
	資 本 金	資 本 剰 余 金		資 本 剰 余 金 合 計
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	
当 期 首 残 高	2,233,490	1,033,711	1,560,090	2,593,801
当 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当				
当 期 純 利 益				
自 己 株 式 の 取 得				
自 己 株 式 の 処 分			274,070	274,070
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純 額)				
当 期 変 動 額 合 計	-	-	274,070	274,070
当 期 末 残 高	2,233,490	1,033,711	1,834,160	2,867,871

	株 主 資 本			
	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金		利 益 剰 余 金 合 計
		別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金	
当 期 首 残 高	81,809	201,000	2,547,778	2,830,587
当 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当			△230,541	△230,541
当 期 純 利 益			741,794	741,794
自 己 株 式 の 取 得				
自 己 株 式 の 処 分				
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純 額)				
当 期 変 動 額 合 計	-	-	511,253	511,253
当 期 末 残 高	81,809	201,000	3,059,031	3,341,840

(単位：千円)

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等		純 資 産 合 計
	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
当 期 首 残 高	△1,323,037	6,334,841	55,756	55,756	6,390,597
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当		△230,541			△230,541
当 期 純 利 益		741,794			741,794
自 己 株 式 の 取 得	△370,321	△370,321			△370,321
自 己 株 式 の 処 分	119,506	393,576			393,576
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純 額)			30,796	30,796	30,796
当 期 変 動 額 合 計	△250,815	534,508	30,796	30,796	565,304
当 期 末 残 高	△1,573,852	6,869,349	86,552	86,552	6,955,901

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項

- (1) 資産の評価基準及び評価方法
- ① 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法
- ② その他有価証券
・時価のあるもの
・時価のないもの
- ③ たな卸資産
・仕掛品
・貯蔵品
- 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
- (2) 固定資産の減価償却の方法
- ① 有形固定資産
（リース資産を除く）
定額法
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
建 物 3～18年
器具備品 2～15年
- ② 無形固定資産
（リース資産を除く）
・ソフトウェア（販売目的）
見込有効期間（3年以内）における見込販売数量に基づく償却額と販売可能な残存有効期間に基づく均等配分額を比較し、いずれか大きい金額を償却しております。
・ソフトウェア（自社利用目的）
社内における利用可能期間（5年以内）に基づく定額法によって償却しております。
・その他
定額法を採用しております。
- ③ リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3) 引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金
売掛金等の債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金
従業員に支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

- ③ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
- ・退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
 - ・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。
過去勤務費用は、その発生時の事業年度で一括して処理しております。
- ④ 株主優待引当金 将来の株主優待券の利用による費用の発生に備えるため、株主優待対象株主数に基づいて、翌期以降に発生すると見込まれる額を計上しております。
- ⑤ 受注損失引当金 ソフトウェアの請負契約に基づく開発等のうち、当事業年度末で将来の損失が見込まれ、かつ当該損失を合理的に見積ることが可能なものについては、翌事業年度以降に発生が見込まれる損失額を計上しております。
- ⑥ 従業員株式付与引当金 当社従業員に対する将来の当社株式の給付に備えるため、従業員向け株式交付規程に基づき、当社従業員に割り当てられるポイントの見込数に応じた株式の給付額を基礎として計上しております。
- ⑦ 役員報酬 B I P 信託引当金 当社及び当社のグループ会社の取締役に対する将来の当社株式の給付に備えるため、株式交付規程に基づき、取締役に割り当てられるポイントの見込数に応じた株式の給付額を基礎として計上しております。
- (4) 収益及び費用の計上基準
- 受注制作のソフトウェア開発に係る売上高と売上原価の計上基準
- ・当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる開発
進行基準（進捗率の見積りは原価比例法）
 - ・その他の開発
完成基準
- (5) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項
- ・消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更に関する注記

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社の有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法につきましては、従来、主として定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法）を採用しておりましたが、当事業年度より、定額法に変更しております。

この変更は、支店の移転を契機とし、有形固定資産の使用状況を検証し、今後の設備投資の方針を検討したことに伴うものであります。

当社の有形固定資産は使用期間にわたり安定的な稼働が見込まれることから、有形固定資産の減価償却方法として定額法を採用することが費用配分の観点からより合理的であり、経済実態をより適切に反映できるため、今回の変更を行うものであります。

この変更による当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

3. 表示方法変更に関する注記

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

4. 貸借対照表等に関する注記

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 267,756千円
- (2) 保証債務
以下の関係会社の仕入債務に対して保証債務を行っております。
グローバルセキュリティエキスパート㈱ 13,470千円
- (3) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。
- ① 短期金銭債権 237,434千円
 - ② 短期金銭債務 170,072千円
 - ③ 長期金銭債務 261,077千円

5. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

- ① 売上高 689,720千円
- ② 仕入高 987,340千円
- ③ 営業取引以外の取引高 167,702千円

6. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

株 式 の 種 類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普 通 株 式	2,185千株	0千株	13千株	2,172千株

- (注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取による増加0千株であります。
2. 普通株式の自己株式の株式数の減少13千株は、株式付与E S O P信託から市場への売却による減少1千株、株式付与E S O P信託の交付による減少1千株、役員報酬B I P信託の交付による減少1千株、従業員持株E-Ship®信託から従業員持株会への売却による減少10千株であります。
3. 普通株式の自己株式の株式数には、株式付与E S O P信託が保有する当社株式(当連結会計年度期首157千株、当連結会計年度末156千株)が含まれております。
4. 普通株式の自己株式の株式数には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式(当連結会計年度期首176千株、当連結会計年度末174千株)が含まれております。
5. 普通株式の自己株式の株式数には、従業員持株E-Ship®信託が保有する当社株式(当連結会計年度期首一千株、当連結会計年度末175千株)が含まれております。

7. 税効果会計に関する注記

- (1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
未払事業税	23,295千円
賞与引当金	159,313千円
未払法定福利費否認	24,533千円
仕掛品評価損等	126,377千円
退職給付引当金	265,387千円
役員退職慰労金未払額	13,297千円
施設利用会員権評価損	9,805千円
投資有価証券評価損	14,358千円
従業員株式付与引当金	23,425千円
役員報酬BIP信託引当金	10,045千円
貸倒引当金	41,863千円
その他	20,846千円
繰延税金資産小計	732,544千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	111,598千円
繰延税金資産合計	620,946千円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△38,198千円
その他	△15,752千円
繰延税金負債合計	△53,950千円
繰延税金資産の純額	566,996千円

- (2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった

主要な項目別の内訳

法定実効税率	30.6%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.8%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△4.2%
住民税均等割	0.9%
評価性引当額の増減額 (△は減少)	4.4%
その他	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.9%

8. 関連当事者との取引に関する注記

- (1) 親会社及び法人主要株主等
該当事項はありません。
- (2) 役員及び個人主要株主等
該当事項はありません。
- (3) 子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	(株)ファイナ ンシャルブ レイシス テムズ	所有 直接90.6	当社のシステ ム開発の一部 を担当 役員の兼任	資金の借入 (注)1	700,000	関係会社 短期借入金	700,000
				利息の支払 (注)1	3,500	-	-
子会社	グローバル セキュリティ エキスパー ト(株)	所有 直接90	当社のコンサル ティングの一 部を担当 役員の兼任	資金の貸付 (注)1	230,000	関係会社 短期貸付金	230,000
				利息の受取 (注)1	1,932	-	-
子会社	(株)BBSアウト ソーシング サービス	所有 直接100	役員の兼任	資金の貸付 (注)1	-	関係会社 短期貸付金	25,000
				資金の貸付 (注)1	-	関係会社 長期貸付金	345,000
				利息の受取 (注)1	3,739	-	-
子会社	(株)EPコンサル ティング サービス	所有 直接100	当社のIT分野 のアウトソー シングの一部 を担当 役員の兼任	資金の借入 (注)1	200,000	関係会社 短期借入金	200,000
				利息の支払 (注)1	1,000	-	-
非連結 子会社	BBS (Thaila nd) Co.,Ltd.	所有 直接49	役員の兼任	資金の貸付 (注)1	41,718	関係会社 長期貸付金 (注)3	136,718
				利息の受取 (注)1	1,813	-	-
関連会社	ニュー・リレ ーション・イ ンフォ・ビス (株)	所有 直接20	役員の兼任	ソフトウェア開 発の受託(注)4	640,444	売掛金(注)5	179,992

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 子会社との資金取引は、グループとしての資金管理の効率化を目的としたグループ内金銭消費貸借制度によるものであります。また、利息の利率については市場金利を勘案して決定しております。
2. 取引金額に消費税は含まれておりません。
3. 非連結子会社への貸倒懸念債権に対し、136,718千円の貸倒引当金を計上しております。また、当事業年度において54,718千円の貸倒引当金繰入額を計上しております。
4. ソフトウェア開発の受託については、市場価格等を勘案し、価格交渉の上、決定しております。
5. 期末残高には消費税を含めております。

9. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	1,193円60銭
(2) 1株当たり当期純利益	127円48銭

10. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

11. 連結配当規制適用会社に関する注記

該当事項はありません。

12. その他の注記

追加情報

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

従業員持株会等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する注記については、連結注記表「10.その他の注記追加情報」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。